

## R5年度 保育の質の自己評価ガイドラインチェックリスト おさかおのこども園

この自己評価は、自己の指導のあり方、園としての運営のあり方を把握し、園全体または個人の反省の上に立って園の教育・保育や運営の改善を図るために行いました。

個々の結果をまとめ、全体的な評価を行い、そこから気づきが改善点につながるようまとめました。この結果を踏まえ、子どもたちの健やかな成長のために家庭と園が連携を図り、お互いが子どもの育ちを理解しながら、更なる教育・保育の向上及び職員の資質向上に努めていきたいと思えます。

A…理解し、十分に取り組んでいる B…概ね取り組んでいる C…理解が不足し、十分取り組んでいない

### (1)子どもの権利

#### 【考察】

子ども自身の特性などの状況を踏まえ、子どもに寄り添う保育を展開するとともに、子どもの成長を的確にとらえ、子どもの発達段階にふさわしい生活の場となるよう、子どもの権利を守ることを保育の中で展開していく。また、適正な保育や教育についても引きつづき自己評価を行い職員全体で見直しを行っていききたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
① 子どもの権利を守る立場を自覚し、保育の中で十分に配慮している。	36	64	0
② 一人一人の子どもの行動や欲求に対して、穏やかに対応し、子どもが理解できるような年齢に応じたわかりやすい言葉を選び、応答的に関わっている。	45	55	0
③むやみな制止や禁止、子どもの言葉や言動を無視する、不必要な大きな声、否定的・抑圧的・管理的な対応などをしていない。	55	45	0

### (2)職員に求められる資質

#### 【考察】

子どもの保育と保護者の援助を行っていくためには、全ての職員が職務への責任感を持ち、常に改善に前向きに取り組み、保育技術や知識を高める意欲が必要である。

また、日頃の保育を肯定的に振り返り自己評価し、保育の質の向上に努め園内研修を通して自身の保育の課題や不足している専門知識・技術について「気づき」の機会を多く持つていくようにする。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
① 子どもと関わることを喜び、子どもと一緒に楽しむことができ、積極的に保育に従事している。	100	0	0
② 職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようと行動している。	64	27	9
③日頃の保育を定期的に振り返り自己評価し、保育の質を向上しようとする意欲がある。	27	64	9

### (3)保育環境

#### 【考察】

環境を通して行う教育・保育の意義を十分に理解し、子ども達が安心して遊び込める環境設定を心がけている。今後も、一人遊びや少人数での遊びをじっくりと行うことや友だちと一緒に体を動かすことができる環境づくりについて、園全体で具体策を考え、取り組んでいきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①友だちと好きなことをして落ち着いて遊べる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくりと休めたりくつろげる空間がある。	67	33	0
② 子どもの生活空間において遊具の素材・配置などの工夫をしている。	44	44	12
③ 子どもの成長に合わせた玩具、遊具、絵本が子どもの手の届く場所に用意され、子どもが自由に遊び、主体的に遊びを展開できるように配慮されている。	56	33	11

#### (4)保育内容

##### ア:乳児保育(1歳未満児)

###### [考察]

この時期の保育においては、「生命の保持及び情緒の安定」という養護の側面が特に重要であることは十分に理解し保育にあっている。今後も肯定的な振り返りを行いながら、専門的な知識の向上に努めていく。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
① 乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いので、一人一人の発育及び発達状態や健康状態について把握し、職員間で連携を取ったり嘱託医との連携を図り、適切な対応を行っている。	75	25	0
② 一人一人の子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を満たし、応答的に関わるようにしている。	75	25	0

##### イ:1歳以上3歳未満児

###### [考察]

発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになり、自分でできることが増えてくる時期である。保育者等は、子どもの情緒や生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し温かく見守るとともに、今後も一人ひとりに丁寧に寄り添い、子ども達が自分らしさを発揮できるよう援助していきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①子どもの不安定な感情の表出については、受け止め、そうした気持ちから立ち直る経験や感情のコントロールすることへの気付きなどに繋げていけるように援助している。また、友達との関わりを丁寧に伝えている。	33	50	17
②自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付く時期であるため、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている。	50	33	17

##### ウ:3歳以上児

###### [考察]

0歳からの発達の積み重ねであることを理解し、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を念頭におきながら保育・教育にあたってきた。今後も一人ひとりに丁寧に寄り添い、子どもたちの主体的な遊びを促しながら自分らしさを発揮できるよう援助していきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
① 子ども一人一人の置かれている状況を把握し、ありのままの姿を理解と見通しを持って受け入れ、子どもが安心感と信頼感を持って、自分らしさを発揮し行動できるように援助している。	60	20	20
②幼児教育において育みたい資質・能力について、遊びや生活の様々な経験が相互に関連し合い積み重なっていくことに留意しながら、子どもの自発的な遊びを通して一人一人の発達の特性に応じて育てていくように環境を整えている。	40	40	20

#### (5)食育

###### [考察]

食べることは、生きることの源であり、心と体の発達に密接に関係していることを理解した上で、こども園では食に関しての取り組みを年間計画に基づき実施している。今後さらに、保育教諭と調理師が連携し子どもの気持ちに寄り添いながら、食への関心を深めていきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①「保育所における食事の提供ガイドライン」をベースに、保育施設の食育に関する方針や目標が計画され、計画に基づき栄養士・給食調理員と保育者等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する取り組みを行っている。	40	40	20
②子どもの状態に合わせて量を加減したり、大きさや柔らかさ、味付けや彩りなど細かい配慮を行っている。	70	20	10
③無理やり食べさせたりせず、子どもの気持ちに寄り添いながら給食の介助をしている。	56	33	11

## (6)支援の必要な子どもの保育

### [考察]

支援の必要な子どもの発達過程や心身の状態を把握し理解しながら、子どもの一人ひとりの発達に合わせて適切な配慮や援助を行い、子どもが生きていくために必要な力を育む援助をしてきた。今後もさまざまな研修を通して、子どもの発達・理解を深めるように取り組んでいきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	89	0	11
②保護者の悩みに寄り添い、子どもの育ちや保護者の置かれた状況に関して、共に考える姿勢を持っている。	56	33	11

## (7)健康

### [考察]

乳幼児期は、特に抵抗力が弱く様々な病気にかかりやすい時期のため、日々の健康観察や衛生管理に気を配り、子ども達が快適にかつ元気に過ごせるように援助を行ってきた。今後さらに保護者との連携を取りながら、情報共有し感染症予防に努めていきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①子どもの入所入園の際に、既往歴および予防接種等の把握を行っている。入所入園後も地域で流行している感染症の情報を適宜保護者と共有したり、必要に応じて予防接種の勧奨を行うなど子どもの健康増進に努めている。	88	12	0
②子どもの健康状態を把握し、体調に合わせて過ごすことができるよう配慮している。子どもの日々の健康観察を行い、子どもの健康状態がいつもと違う状況にある場合はその対応をするとともに、保護者に連絡をして対応の検討を行っている。	78	11	11

## (8)安全管理

### [考察]

こども園での安全管理は、各マニュアルをもとに研修や訓練を実施している。今後も引き続き、全職員のマニュアルの周知を徹底すると共に想定外の事故にも対応できるように職員間で話し合っていきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①事故(プール遊び、水遊び、沐浴等を含む)や災害、不審者対応などにおける安全確保や事故防止についてリスクや注意すべきことが整理され、対応マニュアルの作成や全職員に周知するための研修、発生時を想定した訓練などを行っている。	100	0	0
②感染症発症時には、施設内掲示などで保護者に伝達したり、施設内の衛生管理を徹底するなど、保護者の協力や職員の連携などにより感染拡大防止に努めている。	60	40	0
③その日の子どもの様子や活動内容における安全管理について、職員同士で事前の確認、下準備などを行うとともに、子どもの行動を予測し職員同士が声を掛け合いながら保育を実践している。	50	40	10

(9)子育て支援

【考察】

子どもの成長の喜びを共有すること、子どもの情報を細やかに伝えること、保護者の置かれている状況やその思いを受け止めることを心がけてきた。  
また地域の人との交流、また、子育て支援事業に積極的な取り組みを行うように努めていく。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
①登降時間の会話や連絡帳、活動の記録などの日々のコミュニケーション、行事などあらゆる機会を通じて保育の意図、子どもの状況などを保護者と連絡を取り合っている。	75	13	12
⑦ 育児不安などがみられる保護者に対し、保護者の思いや家族の状況、保育施設での子どもの様子(発達や行動特徴等)を踏まえ、援助の仕方を一緒に考える姿勢を持ち支援を行っている。	88	13	13

(10)運営体制

【考察】

職員は自己評価やアンケートを行い必要に応じて研修を実施してきた。  
職員がやりがいを感じ楽しく働ける職場になるように取り組んでいきたい。また、園の理念と方針、キャリアパスを明確にし全職員が周知できるようにしていきたい。

項目	A(%)	B(%)	C(%)
① 職員が安定して働き続けることができるよう、ワークライフバランスの実現や心身の健康管理の環境づくりに取り組んでいる。	0	86	14
②職員が自らの目標に向かって取り組めるようキャリアパスが明確に示され、それに合わせた研修体制が整えられている。	29	43	28

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- ①健康な心と体 保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
- ②自立心 身近な環境に主体的に関わりさまざまな活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。
- ③協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
- ④道徳性・規範意識の芽生え 友達とさまざまな体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
- ⑤社会生活との関わり 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。

⑥**思考力の芽生え** 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。

⑦**自然との関わり・生命尊重** 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

⑧**数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚** 生活の中には、さまざまな文字や図形、数、標識などが存在します。絵本の中に登場する文字や数字、道路標識、友だちとの遊びの中で出会う「二人で」「3つまで」という数の感覚。

⑨**言葉による伝え合い** 保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩**豊かな感性と表現** 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。